

科目出席率 8 割を満たない場合は、試験を受けることが出来ない。

課題提出 1 0 割を満たない場合は、試験を受けることが出来ない。

成績は以下の通りに評価する

前期と学年末の結果をもとにつける。前期と学年末で差がある場合は、間の評価とする。

前期末試験

8 0 点～	A
7 0 ～ 7 9 点	B
6 0 ～ 6 9 点	C
0 ～ 5 9 点	D

学年末試験

8 0 点～	A
7 0 ～ 7 9 点	B
6 0 ～ 6 9 点	C
0 ～ 5 9 点	D

【愛玩動物看護師科・ペットマスター科】

2 回試験ある場合は、2 回の平均の点数で評価を出す。

点数が 6 0 点に満たない場合は、追試を行う。

追試で合格できない場合は、レポートを提出し、評価を C とする。

欠席した場合は、試験を行うが、評価を C とする。

ペットビジネス教養の実践型授業の評価について

ルーブリック評価表を用いて、評価をつける

【ペット美容トリマー科・ドッグトレーナー科・動物飼育科】

2 回試験ある場合は、2 回の平均の点数で評価を出す。

点数が 6 0 点に満たない場合は、レポートを提出し、評価を C とする。

欠席した場合は、試験を行うが、評価を C とする。

ペットビジネス教養の実践型授業の評価について

ルーブリック評価表を用いて、評価をつける

◆科目別評価点の算出方法◆

科目別評価点の算出においては、各科目の特性に応じてあらかじめ設定した評価項目（以下の7項目より選定）と評価割合を用いて求めることとする。

◆科目別評価点と評価の対応表◆

科目別評価点	科目別評価
3.6～4	A
2.6～3.5	B
1.6～2.5	C
1～1.5	D

◆評価項目◆

1 定期試験得点率

	S（4）	A（3）	B（2）	C（1）	D（0）
得点率	95～100%	80～94%	70～79%	60～69%	59%以下

※追試で得点率が60%以上であれば、何点であっても「C（1）」とする
※追試で得点率が60%未満の場合、原則は「D（0）」評価とする（但し、課題提出等により別途対応する場合がある）

2 小テスト得点率

	S（4）	A（3）	B（2）	C（1）	D（0）
平均得点率	95～100%	80～94%	65～79%	60～64%	60%未満

3 出席率

	S（4）	A（3）	B（2）	C（1）	D（0）
授業出席率	100%	95～99%	88～94%	80～87%	80%未満

4 課題提出率

	S（4）	A（3）	B（2）	C（1）	D（0）
期限内提出率	100%	95～99%	88～94%	80～87%	80%未満

5 検定試験（当該授業における目標試験について適用し、任意で受験した上位試験の合否については試験の難易度に応じて都度判断する）

	S（4）	A（3）	B（2）	C（1）	D（0）
検定試験結果（A）	合格の上位2割	合格の中間6割	合格の下位2割	不合格	正当な理由なく未受験
検定試験結果（B）	満点合格	得点率8割以上で合格	得点率6割以上で合格	不合格	正当な理由なく未受験
検定試験結果（C）	合格の上位1割	合格	不合格の上位4割	不合格の下位6割	正当な理由なく未受験
検定試験結果（D）	合格	不合格の上位2割	不合格の中間6割	不合格の下位2割	正当な理由なく未受験
検定試験結果（E）	得点率で上位の2割	得点率で中間の2割	得点率で下位の6割	学内での受験基準に未達	正当な理由なく未受験
検定試験結果（F）	得点率で上位の1割	得点率で中間の3割	得点率で下位の6割	学内での受験基準に未達	正当な理由なく未受験

6 課題の内容評価（原則として、提出期限内に提出されたものを評価対象とする）

	S（4）	A（3）	B（2）	C（1）	D（0）
レポート	「A」の評価に加え、客観的事実やデータに基づいた考察がなされており、説得力がある内容になっている。	「B」の評価に加え、最後に引用・参考文献を挙げたり、引用部分を「」で括るなどの適切な対応がなされている。 図などを用いて、分かりやすく、見やすい工夫がされている。	テーマに即した内容であり、指定された分量の8割以上を満たしている。	ある程度テーマに沿った内容にはなっているが、一部逸脱した部分が見られる。または、指定された分量の8割を満たしていない。 誤字脱字が多く見られる。	テーマから逸脱している。または、指定された分量を明らかに満たしていない。 氏名が未記入となっている。

7 受講態度

	S（4）	A（3）	B（2）	C（1）	D（0）
講義型授業	「A」評価に加え、適切なタイミングで的確な質問をするなど、授業の精度を高めることに貢献している。	「B」評価に加え、講師の問いに積極的に応えるなど、能動的に授業に臨んでいる様子が見られる。	講師の話に耳を傾け、メモを取るなどして授業内容の理解に努めている様子が見られる。	メモを取らなかつたり授業に集中していない様子が見られる。 （他者に迷惑をかける行為とはいえない）	時折、居眠りや私語など他者に迷惑をかける不適切な行為が見られる。
演習型授業	「A」の評価に加え、分からなくて困っているクラスメイトに教えてあげる等、他者貢献の姿勢が見られる。	「B」の評価に加え、授業で習った以外の方法・解法も試す等、向上心の高さがうかがえる。	自身の演習課題に真摯に取り組み、スキル向上に努めている様子が見られる。	他者に迷惑を掛ける行為はないが、自身の演習課題に取り組まないことがある。	時折、居眠りや私語など他者に迷惑をかける不適切な行為が見られる。
実習型授業	「A」の評価に加え、目的に即した判断により、的確なリーダーシップを発揮している。	「B」の評価に加え、他のメンバーの動向にも配慮し、積極的にコミュニケーションを図っている。	目的達成に向けてグループで協力して取り組む姿勢があり、積極的に自分の役割を果たそうとしている。	目的達成に向けてグループで協力して取り組む姿勢はあるが、指示されたことしかやろうとしない。	目的達成に向けてグループで協力して取り組もうとする姿勢があまり見られない。